

第 9 期 pES club step4 大会看護学生シナリオ

平成 22 年 6 月 20 日

聖路加国際病院 看護部

池亀 俊美

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巣医科大学内科病棟に勤務する 2 年目看護師です。

与久 苔留さん（65 歳，男性）は経営コンサルタント会社社長で，30 代の娘さんと二人で暮しています．約 1 年前に肺小細胞がんと診断され，化学療法と，転移性脳腫瘍に対するサイバーナイフと全脳照射療法を受けました．

今回，背部と左股関節の痛みが悪化し，疼痛管理ならびに同時に指摘された多発脳転移に対して全脳照射を実施するために入院しました．入院後，疼痛に対してはデュロテップを増量し，ロキソニン内服を開始しました．予定通り全脳照射を行いました，徐々に ADL が低下し，嘔吐も出現しました．辻褄の合わない発言や幻覚の訴えが出現し，心療内科にコンサルトしたところ，せん妄の診断でセロクエルが始まりました．

与久さんは昨日の夕食後，床頭台にあるティッシュを取ろうとしてベッドからずり落ち，さらに今朝も，トイレにて転倒し，腰部を軽度打撲しました．与久さんの本日の日勤の受け持ち看護師であるあなたは，朝のあいさつと与薬のために，与久さんの病室を訪れました．

あなた「与久さん，おはようございます．夕べは良く眠れましたか？」

与久「眠り薬をもらったけど，よく眠れたのか，眠れないのか自分でもわからないよ．なんだか，体全体がとても重い感じがするんだ」

あなた「そうですか，眠れたという実感が無いことは辛いですね．そういえば，今朝転んで腰を打ったと聞きましたが，痛みはありませんか？」

与久「ああ，そのことかい？それなら大丈夫だよ．ちょっと，しりもちついただけだから．みんな大げさなんだよ」

あなた「そうですか．これはお願いなのですが，与久さんがトイレに行くとき，看護師が付き添ったり，与久さんが転ばないように，体にセンサーをつけさせていただきたいと思うのですが，いかがでしょうか？」

与久「えっ？看護師さんがトイレに付き添ったり，体にセンサーを付けるなんて，監視されているようでごめんだね．夜の受け持ちの看護師さんもそんなことを言っていたけれど，何度も言っただよ」

このままでは，与久さんがまた転倒するのは間違いありません．あなたは，転倒の危険性とその予防策について，与久さんに納得してもらえるように作戦を練り直して，説明を試みることにしました（10 分間）．